

2つの「理科系食堂」

20年前までの理系の卒業生・修了生の中には、名大生協が経営する2つの「理科系食堂」に思い出のある方も多いのではないのでしょうか。今回は、その歴史をたどってみましょう。

理科系食堂ができたのは、1966（昭和41）年4月のことです。この年、農学部が移転して医学部以外の東山への集結が完了するとともに、かねてより理系の学生が急増していたため、食堂の充実が急務になっていました。

この理科系食堂は、軽量鉄骨造りの平屋建で総面積約264m²、内部は144人収容の食堂と22人収容の喫茶コーナーからなっていました。しかし、すぐに混雑を極めるようになったため、1972（昭和47）年4月、その東側に隣接して、鉄筋コンクリート造り2階建の延べ面積660m²に約280席を擁する新理科系食堂が開店しました。

旧食堂は、1974（昭和49）年4月、ゆったりと食事ができる食堂をめざして、喫茶・寿司部を含めたグリル（軽

食堂）としてリニューアルオープンしました。ただその後も、1979年4月には和風食堂に、1985年3月には中華食堂にと、頻繁に改装されています。

新食堂は、1980（昭和55）年4月にカフェテリア食堂として改装オープンしました。定食制ではない、利用者の好みや予算に合わせて一品ずつ選ぶカフェテリア方式は、現在の名大生協の食堂では一般的になっていますが、これが初めての試みでした。

なお、建築順に第1理科系食堂、第2理科系食堂が正式名称ですが、生協では「理科系中華食堂」、「理科系カフェテリア」などと通称していました。後者が第1理科系食堂と勘違いされることもあったようです。

そして2006（平成18）年、名大生協の寄附と協力を得て、中華食堂を取り壊してフロンテ（書店とカフェ）が新築され、カフェテリアの改修によりダイニングフォレストが新装開店して現在に至ります。



- 1 1966年開店当時の第1理科系食堂。
- 2 第2理科系食堂（1970年代）。2階の北東角に出口があり、そこから道まで下り坂という風景は、今も変わっていない。
- 3 1985年改装開店時の理科系中華食堂。当時、「理系ラーメン」が200円、日替り定食が420～450円であった。
- 4 理科系カフェテリア（1989年7月撮影）。2階の北側に厨房、南側に食堂、1階にトイレという構造は今も同じである。
- 5 取り壊し中の理科系中華食堂（2005年9月撮影）。右上に見えるのが改修前の理科系カフェテリア。



名古屋大学の卒業生、
現役・退職後の教職員の方々へ

名大史をつむぐ資料を
大学文書資料室に！



■ 在学時の配布物

（学生便覧、シラバス、試験問題、課外活動の資料…）

■ 教育・研究活動、大学・部局運営に関する資料

（各種書類、会議のメモ、備忘録、スクラップ記事、写真…）

■ 校費による印刷物・刊行物

（冊子、パンフレット、ポスター…）

■ ご退職関係の記念冊子・記念論集・業績集…

など

※その他、ご処分予定の資料についても、まずは下記へご一報ください。

東海国立大学機構大学文書資料室

TEL 052-789-2046
Mail archives@t.thers.ac.jp